

基礎看護学実習Ⅱ

I 実習目的

健康上の課題をもつ患者に既修の知識・技術・看護過程の技法を用い、個別的な看護を実践するための基礎的な能力を修得する

II 実習目標

- 1 患者およびその家族と良好な人間関係を築く
- 2 ゴードンの機能的健康パターンに基づき情報収集を行い、看護過程の技法を用いて個別性のある看護過程を展開する
- 3 実習での経験を振り返り、個別性のある看護を実践する意義を認める
- 4 看護学生として適切な態度・行動を示す

III 実習構成

- 1 単位数と時間数
2 単位（総時間数 90 時間）
- 2 実習構成内容・実習場所・実習時間

実習構成内容	実習場所	実習時間
オリエンテーション	新潟県立十日町看護専門学校	2 H
看護過程の展開	新潟県立十日町病院 新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院 等	88 H

IV 実習内容

実習目標・行動目標	学習内容
<p>1 患者およびその家族と良好な人間関係を築く</p> <p>(1) 患者およびその家族とその場に応じた適切なコミュニケーションを図る</p> <p>(2) 患者およびその家族の言語的・非言語的意味を考えて相手の思いに気づく</p>	<p>① 身だしなみ</p> <p>② 言葉遣い</p> <p>③ 対象・家族への関心と尊重</p> <p>④ 接近的行動・非接近的行動</p> <p>⑤ 状況に応じた言葉かけ</p> <p>⑥ 受容的態度</p> <p>⑦ 共感的態度</p> <p>⑧ 患者およびその家族の表情や反応</p> <p>⑨ アサーティブな思考、言動</p>
<p>2 ゴードンの機能的健康パターンに基づき情報収集を行い、看護過程の技法を用いて個別性のある看護過程を展開する</p> <p>(1) ゴードンの機能的健康パターンに基づき、正確に対象の情報収集をする</p> <p>(2) ゴードンの機能的健康パターンを用いて、情報を分類・整理する</p> <p>(3) 分類・整理した情報を、分析・解釈する</p> <p>(4) 分析・解釈した内容を因果関係が分かるように、対象の全体像として記述する</p> <p>(5) 全体像を含めて看護の方向性を明確に記述する</p> <p>(6) 全体像から仮の看護問題を記述する</p> <p>(7) 仮の看護上の分析・解釈を記述する</p> <p>(8) 看護上の問題を正しい表記で記述する</p> <p>(9) 患者の対処能力を考慮した援助の必要性を記述する</p> <p>(10) 看護目標を RUMBA の法則に則して表現する</p> <p>(11) 看護目標を達成するために観察計画、援助計画、教育計画に区分して個別性のある看護計画を立案する</p> <p>(12) 援助の必要性や科学的根拠を明確にし、実施する</p> <p>(13) その日の対象の状態に応じた、援助を実施する</p> <p>(14) 対象の安全・安楽に考慮し、援助を実施する</p> <p>(15) 日々の援助の結果や対象の反応から、自己の援助を評価する</p> <p>(16) 評価した実施内容を翌日の援助や看護計画に追加・修正する</p> <p>(17) 現在の患者の状態と看護目標を関連付けて看護目標の達成度を評価する</p> <p>(18) 自己が展開した看護過程の各構成要素と自己</p>	<p>① ゴードンの各機能的健康パターンによる情報</p> <p>② 情報収集源 (対象、家族、医療者、記録物)</p> <p>③ 情報収集の手段 (面接、観察)</p> <p>④ 意図的な情報収集主観的情報・客観的情報</p> <p>⑤ フィジカルアセスメント</p> <p>⑥ 情報の分類・整理</p> <p>⑦ 病態生理 (原疾患、既往歴)、治療、合併症</p> <p>⑧ 問題が起こっている原因・誘因の追及成り行き問題解決できなかった場合の身体・心理・社会面への影響</p> <p>⑨ 対象の対処能力 (体力・意思力・知識)</p> <p>⑩ 機能的健康パターンで分析解釈した内容との関連性</p> <p>⑪ 健康障害が身体的・心理的・社会的状況に及ぼす影響</p> <p>⑫ 関連因子 (原因・誘因の句) + 問題の句 (+ 指標、症状・徴候)</p> <p>⑬ 患者の全体像を踏まえた援助を提供した後の望ましい姿</p> <p>⑭ 看護目標の正しい表現法 RUMBAの法則 R: 現実的 (Real) U: 理解可能 (Understandable) M: 測定可能 (Measurable) B: 行動的 (Behavioral) A: 達成可能 (Achievable)</p> <p>⑮ 対象の個別性、安全性、安楽性、自立性を踏まえ具体的かつ実践可能な計画</p> <p>⑯ 看護目標の設定の妥当性</p> <p>⑰ 援助の説明と同意</p> <p>⑱ 羞恥心に配慮した援助患者の安全・安楽を考慮した援助</p>

<p>の援助を関連させて、自己の看護過程の展開を考察する</p>	<p>①9 援助実施前、援助中、援助後の患者の表情、反応の観察 ②0 その日の対象の状態から、援助方法を修正・追加 ②1 評価した実施内容から計画の修正・追加 ②2 看護の評価 ②3 看護過程の各構成要素の振り返り</p>
<p>3 実習での経験を振り返り、個別性のある看護を 実践する意義を認める (1) 実習での経験を振り返り、自己の課題とその 解決するための手段を考察する (2) 個別性のある看護を実践する意義を述べる</p>	<p>① 実習の客観的な振り返り・考察 ② 今後の自己の課題についての明確化 ③ 自己の課題に対しての解決手段</p>
<p>4 看護学生として適切な態度・行動を示す (1) 相手に配慮した話し方や行動を示す (2) 看護師や教員、グループメンバーからの意 見や助言を受け止め、自己の言動に活かす (3) 能力の維持・向上のために、主体的に学習する 姿勢を示す</p>	<p>① 教員、スタッフとのコミュニケーション ② 意見や助言を謙虚に聴く姿勢 ③ メンバーシップ ④ カンファレンステーマに沿った意見交換 ⑤ 協同する力 ⑥ 自分の思考の傾向 ⑦ 自分の行動の客観的な振り返り ⑧ 相手に対する思いやり、配慮、言動 ⑨ 提出期限の遵守 ⑩ 守秘義務、個人情報の取り扱い ⑪ 報告・連絡・相談 S B A R S : 状況「Situation」 B : 背景「Background」 A : 評価「Assessment」 R : 提案「Recommendation」 ⑫ 看護職の倫理綱領 ⑬ 文献を活用した自己学習の継続 ⑭ 学習した知識の活用 ⑮ 計画的な看護技術の経験 ⑯ 主体的な学習、追加学習 ⑰ 心身の健康管理</p>

V 実習配置

別紙参照

VI 実習方法

- 1 一人の患者を受け持ち実習する
- 2 看護過程の技法を用いて個別性のある看護過程を展開する
- 3 健康上の課題をもつ患者の自立と安楽を考え、安全に実施できる援助計画を立案し、実践する

Ⅶ 実習記録

- 1 基礎看護学実習Ⅱ 評価表（基礎Ⅱ 様式1）
- 2 基礎看護学実習Ⅱ 学習成果レポート（基礎Ⅱ 様式2）
- 3 アセスメントシートⅠ（基礎Ⅱ 様式3-①～3-⑬）
- 4 全体像（共通様式B）
- 5 アセスメントシートⅡ（共通 様式C）
- 6 看護計画シート（共通 様式D）
- 7 看護の評価（共通 様式E）
- 8 毎日の実習記録 看護計画立案前（共通 様式F-①）
- 9 毎日の実習記録 看護計画立案後（共通 様式F-②）
- 10 事前学習・追加学習

Ⅷ 実習記録

最終評価は評価表に基づき、担当教員が最終評価をする